

病害虫情報 No. 4

茨城県病害虫防除所

ナシのナシヒメシンクイが平年よりやや多く発生しています

上旬の防除を行っていない圃場では早急に防除を実施してください。

[現在の状況]

- ① 8 月上旬現在，被害果率及び発生地点率は県南地域で過去 4 年間の平均値よりやや高い（表 1）。
- ② 8 月上旬現在，ナシヒメシンクイのフェロモントラップ（土浦市）への誘殺数は，過去 4 年間の平均値よりやや多い（図 1）。
- ③ 8 月上旬現在，ナシヒメシンクイのフェロモントラップ（岩間町）への誘殺数は，平年よりやや多い（図 2）。
- ④ 気象予報によると，向こう 1 ヶ月の気温は平年並か高いと予想されており，発生を助長する条件である。

表 1 県内ナシ主要生産地域におけるナシヒメシンクイの被害発生状況

(8 月上旬調査)

地域 (調査地点数)	被害果率 (%)		発生地点率 (%)	
	本年	平年 ¹⁾	本年	平年
県北 (2)	0.0	0.0	0	13
県南 (3)	0.2	0.1	66	8
県西 (3)	0.0	0.0	0	0

1) 2001～2004 年までの平均値

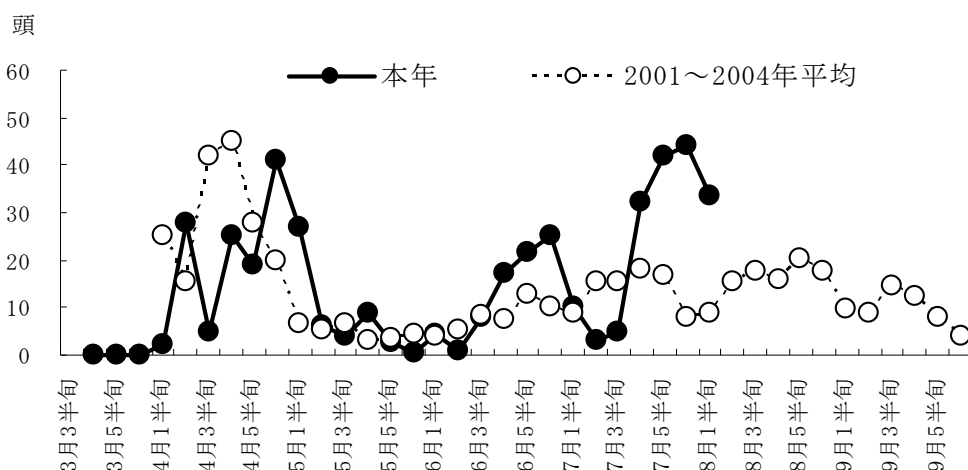


図 1 フェロモントラップによるナシヒメシンクイ雄成虫の発生消長（土浦市）

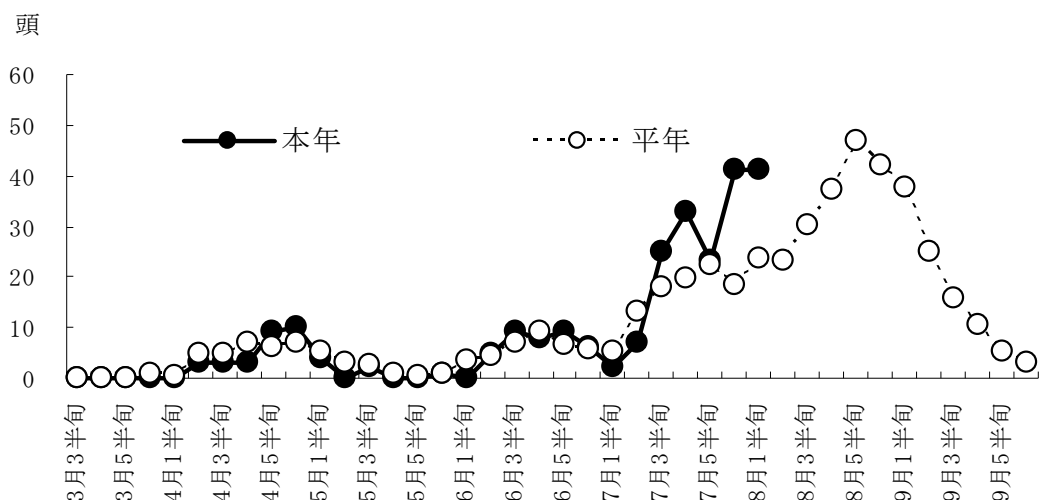


図2 フェロモントラップによるナシヒメシクイ雄成虫の発生消長（岩間町）

[防除対策]

- ① 8月上旬の防除を行っていない圃場では、防除暦に基づき、収穫前日数に注意して8月中旬のロディー水和剤の散布を早急を実施する。
- ② 発生が多い圃場では、「幸水」収穫終了後に「豊水」や「新高」等を対象に薬剤散布を実施する（表2参照）。なお、散布適期は、8月5半旬（8月20～25日）頃と予測される。
- ③ 薬剤散布量は、10a当たり3000を目安にし、丁寧に散布する。
- ④ 今後収穫期を迎える「豊水」や「新高」への次世代幼虫による加害を防ぐため、被害果は水に浸漬するか、土中深く埋めるなど速やかに処分する。

表2 ナシのシクイムシ類に登録のある主な薬剤（2005年8月9日現在）

薬剤名	使用時期	希釈倍数	使用回数	有効成分名 (有効成分の総使用回数)
アクロスリン水和剤	収穫前日まで	1,000 ～2,000	3	シハルメトリン (3)
アデーション乳剤	収穫前日まで	2,000 ～3,000	2	ヘルメトリン (2)
ロディー水和剤	収穫前日まで	1,000 ～1,500	2	フェンプロパトリン (2)

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ使用してください。